

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和8年度学校評価計画

学校名	有田町立曲川小学校		
1 前年度 評価結果の概要	<p>・本校教育の重点目標である「自ら考え、判断し、主体的に行動する児童の育成」を目指し、今年度も「自分から 自分で」を合い言葉に、学校と保護者・地域が一体となって様々な視点から教育活動に取り組んできた。アンケートで、95%以上の児童が「学校が楽しい」と回答したのは、その成果だと考えている。</p> <p>・「柿右衛門展」をはじめとする陶芸教室は、長年続く本校独自の取組であり、地域人材と交流しながら伝統工芸に触れることで、地域を誇りに思う児童が育っている。今後も、地域性を生かした様々な体験活動を展開していきたい。</p> <p>・学習面では、算数科を中心に学力向上を図ってきた。「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を目指して取り組んできたことが、児童の主体性を高めることにつながったと考える。CRTの結果もほとんどの学年で昨年を上回った。</p> <p>・成果と課題をしっかりと把握・分析し、改善に努めていきたい。学校目標の達成に向け、今後も尽力していく。</p>		
2 学校教育目標	心身ともに健全で、自ら考え行動し、豊かな人間性をもつ子どもの育成		
3 本年度の重点目標	自分から自分で ～自ら考え行動し、豊かな人間性をもつ児童の育成～		
4 重点取組内容・成果指標			
(1)共通評価項目			
重点取組			
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組
●学力の向上	○授業力向上に取り組む、学習の見通しをもたせた分かりやすい授業づくり	○各教科の基礎的・基本的な課題に対し、児童の正答率85%以上	・基本的な学習スタイルを確立し、主体的に学ぶ楽しさを味合わせる。自分に合った学び方を選べるようにするための教材研究と環境づくりを行う。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○日々の授業の中で人権・同和教育の視点に留意した学級集団づくりに取り組み、Q-Uアンケートで要支援群5%以下にする。	・各学級、道徳の授業参観を年1回以上実施する。 ・「心のアンケート」や「Q-Uアンケート」等を生かして実態把握をし、授業実践する。 ・校内研究や日々の授業の中で、人権・同和教育の視点に留意して取り組む。
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止や早期発見のための取り組みや事案対応において、組織的対応ができていると回答した教員90%以上	・日々の観察とともに、「心のアンケート」や「Q-Uアンケート」を実施して児童の実態を把握する。その結果をもとに、個別に面談を行い、いじめ等の早期発見に努める。また、いじめについての研修を行い、児童の把握やいじめのメカニズム等について理解を深める。 ・SCやSSW来校日には、児童が相談しやすいように場の設定や保護者への情報提供を行う。

	●◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒90%以上 ●◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒90%以上	・各教科や行事等を通して、自分の夢や目標について考える時間を設け、キャリアパスポートを活用する。(学校行事に関連づける。) ・ゲストティーチャーを招くなどして児童の視野を広げ、向上心を高める。
●健康・体づくり	●運動習慣の改善や定着化	●授業以外で運動やスポーツ、外遊びを行う日が1週間で4日以上の子供90%以上	・マラソンタイムを実施することで児童の外遊びの機会を増やし、運動への意欲を高める。 ・担任からの声掛けにより児童が外で遊ぶ機会を確保する。
	○望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	○「バランスの良い食事をしている」と回答した児童90%以上	・各学年で計画的な食育指導を行い、栄養教諭と連携し、食育授業を年1回以上実施する。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●職員1人当たりの年次休暇の年間取得日数14日以上を目指す。	・管理職は、教職員の在校等時間の実態を正確に把握し、随時適切な声かけを行う。 ・長期休業中の校内研修等を精選し、教務と連携して休暇を取得しやすいスケジュールづくりに努める。 ・ICT支援員と連携しながら、動画教材の作成や、能率的なデータ管理・保管を行う。
	○会議の開催方法の改善、時間短縮と内容の精選	○会議資料はなるべく電子化し、職員会議等の時間は1時間以内とする。	・部会での検討を十分に行い、会議での検討内容を精選しておく。 ・職員フォルダに資料を事前に入れ、一読しておくことで協議の時間を確保する。
●特別支援教育の充実	○特別な支援や配慮を要する児童に対する意識と教員の専門性の向上	○「特別支援に関する専門性が向上した」と回答した教員80%以上	・特別支援学級担任の授業公開を2回実施する。 ・特別支援教育に関するアンケートを行い、実態把握をしていくことで学級経営や授業・児童支援につなげる。(アンケート8月と1月の2回実施)

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組			具体的取組
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	
○開かれた学校づくりの推進	○保護者・地域との連携と体験活動の充実	○「学校は、よく情報を伝え、保護者の相談や要望に誠実に対応している」と実感する保護者80%以上 ○地域等と連携した教育活動を各学年2回以上実施する。	・学校・学級・保健などの通信を定期的に発行するなど、学校の取組を積極的に発信する。 ・コミュニティ・スクールの特性を生かし、学校運営協議会委員やPTAと連携しながら、地域学習や体験活動を充実させる。

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> <li>・</li> <li>・</li> </ul>
----------------	---